地域スポーツイベントにおける経済波及効果及び健康増進に及ぼす影響
ー「第2回塩尻ぶどうの郷ロードレース」の分析を中心にー

大窄　貴史・成　耆政・鈴木　尚通・中島　弘毅・
葛西　和廣・竹内　信江・田中　正敏

A Study on Human Health and Economic Effects in the Regional Sporting Events

OSAKO Takashi, SUNG Kijung, SUZUKI Naomichi, NAKAJIMA Koki,
KASAI Kazuhiro, TAKEUCHI Nobue and TANAKA Masatoshi

要　旨

本稿は地域スポーツイベントの経済波及効果及び参加者の健康増進への影響について、明らかにすることを目的とした。経済波及効果は大会運営経費の2.01倍であった。満足度における肯定的回答が、およそ8割であった。リピーターの運動機会は、参加者全体の4割で運動機会が増加した。

本大会が他の関係団体と共同し、魅力あふれる大会を創造していくことが、塩尻市を中心とする地域の活性化、地域住民への活力及び健康増進に寄与すると考える。

キーワード

地域スポーツイベント　　経済波及効果　　健康増進

目　次

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果の分析
　－産業連関分析による経済波及効果の推計－
Ⅲ．ロードレース参加者の実態と意識
Ⅳ．ロードレース参加者の運動習慣
Ⅴ．考察及びまとめ
【付記】
【参考・引用文献】
【参考資料】

Ⅰ．はじめに

2007年1月に観光立国推進基本法が施行された[1)]。同年6月には、観光立国に向けて総合的かつ計画的な推進を図るため観光立国推進基本計画が閣議決定された。それらを受け、観光立国実現のために総合的かつ計画的に推進する必要があるため、2008年10月に観光庁が発足した。2009年12月には、日本の成長戦略の柱として位置づけ、最重要課題として観光立国推進本部が設置され、観光立国に向けた推進体制が強化された。また、観光立国推進本部内に3つのワーキングチームを設け、その1つである観光連携コンソーシアムにおいては、ニューツリズムや観光産業等の総合的な振興策について検討がなされた[2)]。

第1回観光連携コンソーシアムでは、「観光立国推進基本計画におけるニューツリズムの位置づけについて」を議題にし、ヘルスツーリズムの視点から地域滞在型観光の推進方策について言及している。そこでは、ヘルスツーリズムを「自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持するもの」[3)]と定義し、参加者が様々な地域イベントに参加するだけではなく、地域住民との交流、地域観光、地域の特産品や食等を通じて、地域密着型の新しい旅行形態を検討している。

第2回観光連携コンソーシアムでは、「スポーツ観光等に関する関係府省連携(案)」を議題にし、スポーツ観光のイメージを3類型で提示している。1つ目の「見るスポーツ」では、プロスポーツ観戦等を行った後、周辺地域の観光を楽しむような滞在型プランを提示している。2つ目の「するスポーツ」では、市民マラソン大会に参加や家族の応援等を行う。旅そのものを楽しんだ後、更に異なるスポーツを実施するためのスポーツ施設の活用、スポーツ用品購入、温泉施設利用等の健康増進等を通じて、地域活性化や健康の保持増進を目指すものである。3つ目の「支えるスポーツ」では、Jリーグやbjリーグ等に代表されるスポーツチームを地域で経営することや地域スポーツイベントの市民ボランティアとしての支援があげられている。スポーツイベントの支援を通じて、ボランティア同士の交流、参加者との交流を通じて、地域の魅力を発信すること等が掲げられている。これら3つの類型を総合して推し進め、旅の充実感の増大、文化的欲求を満たし、様々な潜在需要を喚起することにもなり、関連企業への波及効果も大きいと指摘している[3)]。

上記3つの類型を受けるかたちで、2010年6月にはスポーツツーリズム推進基本方針(概要)が示された[4)]。そこでは、スポーツとツーリズムの融合で目指すべき姿として、「より豊かなニッポン観光の創造」と「スポーツとツーリズムの更なる融合」を掲げている。具体的には、スポーツを通じて新しい旅行の魅力を作り出し、地域観光資源を顕在化することによる国内旅行の活性化や意図的な融合により、新しい価値や感動とともに新たなビジネスを創出することとしている。これらを背景として、各地域ではスポーツツーリズムの推進に向け、スポーツ資源を通じての地域スポーツイベントの開催、地域づくりや地域活性化に向けた取り組みが行われている。

地域スポーツイベントにおける地域活性化に関する研究は、オリンピックが開催された長野県白馬村の知名度を生かした地域活性化に関するセミナー[5)6)]が行われている。また、ロードレース参加者に関する研究では、NAHAマラソン大会参加者の参加動機に関する研究[7)]、ホノルルマラソン参加者の準備とレース当日の実態に関する研究[8)]、そして神戸

全日本女子ハーフマラソンにおける一行簡潔法と図式化によるイベントの質的評価[9)]が行われている。中島ら[10)]は、第1回塩尻ぶどうの郷ロードレースを事例として、その経済波及効果について明らかにするとともに、地域スポーツイベントの目指すべき方向性及び地域活性化に向けた戦略を提示している。

本研究では地域参加型スポーツイベントである第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースを事例として、同大会における経済波及効果及び参加者の健康増進への影響について明らかにすることを目的とする。

Ⅱ．第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果の分析
ー産業連関分析による経済波及効果の推計ー

1．分析方法

この分析[註1]では平成17年度長野県産業連関表（長野県企画部情報統計課、平成22年1月）に基づき、産業連関分析を用いて計量的手法により推計したものである[註2]。なお、本分析ではロードレースの運営それ自体から生じる経済波及効果を推計するために、参加者などの塩尻地域での消費は考慮せず、本ロードレースイベント開催の経費（図表Ⅱ-1）のみに限定して分析を行った。これは、アンケート調査結果、ロードレース参加者の主な経済活動ともいえる塩尻市内での宿泊者などは極めて少なかったことに起因する。

図表Ⅱ-1　大会運営費（支出）（決算見込み）

項　　目	金　　額（円）
参加賞費	1,165,950
保険料	113,720
食料費	536,422
謝　礼	30,000
印刷製本費	1,322,790
消耗品費	119,354
景品費	371,535
広告費	97,645
観光サービス費	498,920
安全対策費	509,555
計時費	1,222,021
通信費	141,277
音響設備費	41,260
振替手数料	11,000
リース料	133,350
予備費	183,376
合　　計	6,498,175

資料：塩尻ぶどうの郷ロードレース実行委員会

[註1]ここは、NPO法人塩尻市体育協会に提出した「第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果の分析－産業連関分析による経済波及効果の推計－」2010年12月、1～6頁による。

[註2]産業連関分析の手法については、中島弘毅・成耆政他「地域スポーツイベントにおける経済波及効果の計測と地域活性化戦略の構築－第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレースの分析を中心に－」『地域総合研究』第11号Part1、松本大学地域総合研究センター、2010年6月、102～105頁などを参照されたい。

２．本分析結果の利用上の留意点

産業連関表による分析、すなわち産業連関分析は経済分析手法として非常に優れており、多方面・他分野で経済波及効果を分析するために活用されている。しかし、産業連関表による経済波及効果の推計は、あくまでも経済モデル分析の一つであり、そこにはいくつかの基本的仮定と前提条件などの留意点があることに十分に理解・留意し、活用すべきである。

まず第1に、平成17年度の長野県産業連関表の産業構造により分析しており、取引基本表の中間需要の列ごとに、原材料等の投入額を当該産業の生産額で除して得られる係数であり、ある産業において1単位の生産を行う時に必要な原材料等の単位を示す「投入係数」と、ある産業に対して1単位の最終需要があった場合、各産業の生産が究極的にどれだけ必要となるか、すなわち直接・間接の究極的な生産波及の大きさを示す「逆行列係数」を一定と仮定している[註3]。

第2に、本分析で用いた価格は平成17年度の価格である。

第3に、一つの生産物は、ただ一つの生産部門から供給される。

第4に、本ロードレースによる経済波及効果が、達成される期間（期限）は不明である。

第5に、本ロードレース分析では主催者のロードレースイベントの支出（運営費・開催経費など）のみによる分析である。

３．分析に用いる用語の解説

1）産業連関表

産業連関表は、国内経済において一定期間（通常1年間）に行われた財・サービスの産業間取引を一つの行列（マトリックス）に示した統計表で、5年ごとに関係府省庁の共同事業として作成している。産業連関表（取引基本表）を縦（列）方向に見ると、財・サービスの生産にあたって投入された原材料及び粗付加価値の構成が示されており、横（行）方向に見ると、生産された財・サービスの販売（産出）先の構成が示されている。産業連関表は、一国の経済構造を明らかにする基礎統計として、経済の波及効果分析や予測、国民経済計算などの経済統計の基準値として利用されている。

2）経済波及効果

経済波及とは、ある産業に対して生じた最終需要がその産業の生産を誘発するとともに、それにより次々と各産業の生産をも誘発していくことをいい、その生産誘発額は直接効果、第1次間接効果、第2次間接効果の3段階に分けて計算（推計）を行う。

①直接効果

消費や投資などの最終需要により生じる最初の生産増加額のことを意味する。すなわち、経済波及のもとになる効果のことで、新たな消費や投資によって発生した最終需要額をさす用語である。

[註3]総務省統計局のウェブサイト資料。

②第1次間接効果

新たな生産(直接効果)により生じた原材料等の投入によって県内各産業部門で誘発された生産額のことで、直接効果と第1次間接効果をあわせて第1次波及効果という。

③第2次間接効果

第1次波及効果(直接効果及び第1次間接効果)に伴って発生した雇用者所得が新たな消費需要(民間消費支出)にまわり、それにより誘発された生産額のことである。この第2次間接効果を第2次波及効果ともいう。

④総合効果

第1次波及効果と第2次波及効果(第2次間接効果)の合計額のことである。一般的に、これを経済波及効果という。本分析でも経済波及効果はこの総合効果を用いることにした。

４．大会運営費による経済波及効果の推計

1)直接効果

本ロードレースによる経済波及の直接効果として**6,860,370**円と推計することができる。

2)第1次波及効果

本ロードレースによる経済波及の第1次効果として**10,236,278**円と推計することができる。

3)第2次波及効果

本ロードレースによる経済波及の第2次効果として**2,825,054**円と推計することができる。

4)総合効果

本ロードレースによる経済波及の総合効果は**13,061,332**円で、大会運営経費6,498,175円の約**2.01**倍の経済波及効果が得られると推計できる。

図表Ⅱ-2 「第2回塩尻ぶどうの郷ロードレース」の経済波及効果の推計

経済波及効果	金　　額（円）
直接効果	6,860,370
第１次波及効果	10,236,278
第２次波及効果	2,825,054
総合効果	13,061,332

５．本ロードレースの経済波及効果を高めるための提言

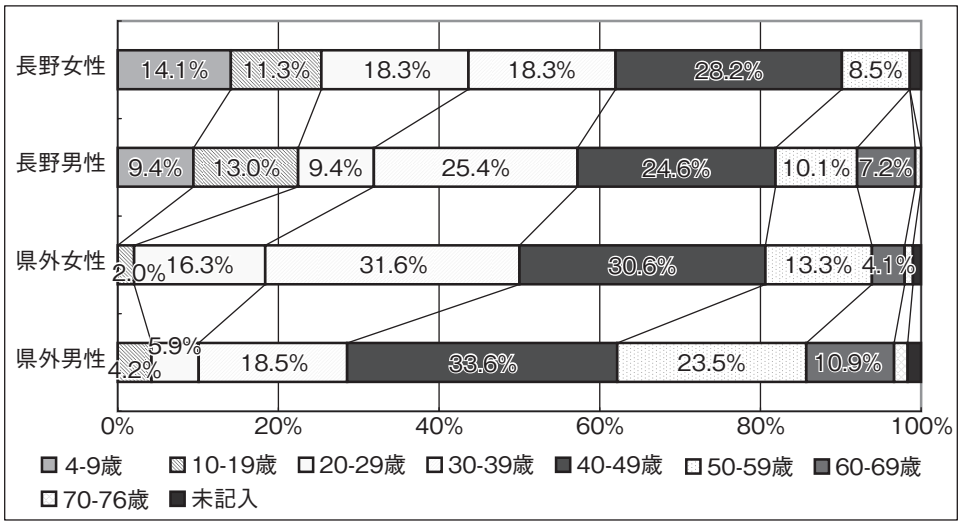
第1に、既存の塩尻市内の宿泊施設の集中的なPR活動と工夫などを行う。たとえば、ロードレース参加者対象の宿泊料金の割引などを行い、宿泊者を増やすこと、または、ロードレースの前日に受付を行うことで、塩尻市内に宿泊者を増やす工夫をすべきである。

第2に、ロードレースと農特産物(品)直売まつりの同時開催などを行うことである。折角、このレースのために2,000人以上のランナーが塩尻に日本各地から集まってくる。この機会を利用し、塩尻の特産物、農産物などを積極的にPRし、販売すべきである。

Ⅲ．ロードレース参加者の実態と意識

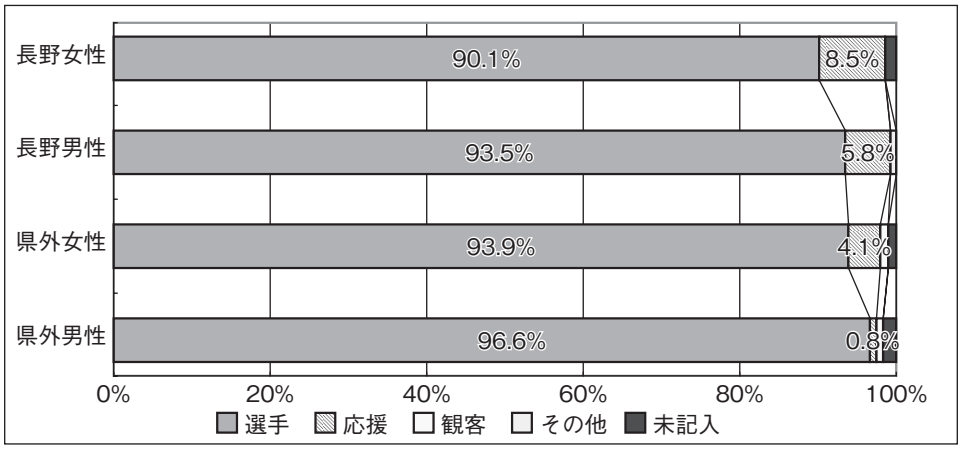
ぶどうの郷ロードレースに対して参考資料に示したアンケート票を用い、直接面接法により質問紙調査を実施した。調査場所は会場である松本歯科大学グラウンドの横に設置された無料ぶどう配布所横であった。ゴール直後のランナー及びその周辺にいた参加者に対して調査は行われ、被調査者は会場に並べられたテーブルで調査者の説明を受け記入した。回答者は参加者2,019人中426人であった。性別は男性257（60.3％）人、女性169（39.6％）人であった。参加者の居住地は長野県209人、長野県外217人であった。以下では長野県内居住の男性（長野男性）138人と女性（長野女性）71人、及び長野県外居住の男性（県外男性）119人と女性（県外女性）98人の4つのクラスに分けた集計結果を示す。

図表Ⅲ-1はアンケート回答者の年齢層の分布を示す。回答者は長野男性では30代が25人（25.4％）と最も多く、以下、40代34人（24.6%）、10代18人（13.0％）であった。長野女性では40代が20人（28.2%）と最も多く、以下20代と30代がそれぞれ13人（18.3％）であった。県外男性では40代40人（33.6％）が最も多く、以下、50代28人（23.5％）、30代22人（18.5%）であった。県外女性は30代が31人（31.6%）、40代が30人（30.6%）とわずかな差で、次に20代の16人（16.3%）の順に多かった。10歳未満の参加者は県内のみとなっており、10代の参加者も県内では県外に比べ多かった。



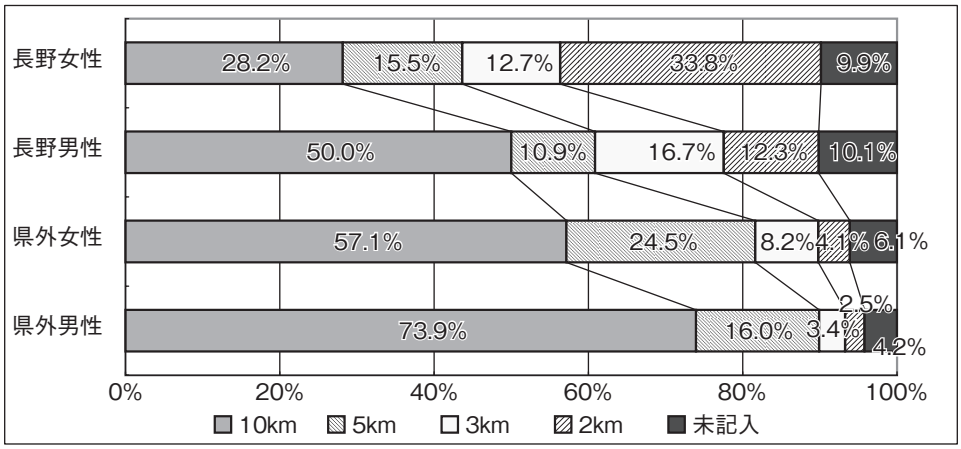
図表Ⅲ-1　居住地別・男女別参加者の年齢層

図表Ⅲ-2は参加形態の集計結果を示す。長野男性では選手が129人（93.5%）、応援が8人（5.8％）であった。長野女性では選手が64人（90.1%）、応援が6人（8.5％）であった。県外男性では選手が115人（96.6％）、応援が1人（0.8％）、県外女性では選手が92人（93.9％）、応援が4人（4.1%）であった。第1回調査と同様の結果であり、殆どの回答者が選手として参加していた。



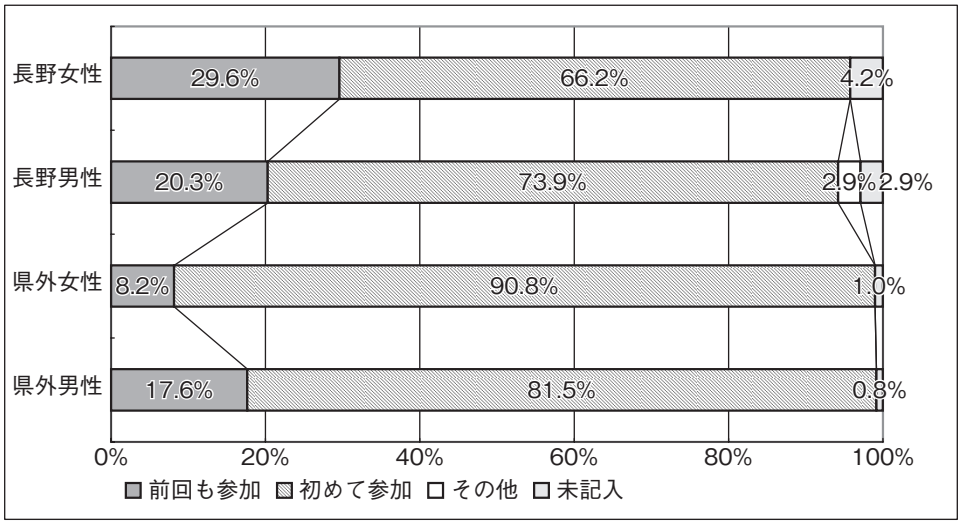
図表Ⅲ-2　居住地別・男女別参加者の参加形態

図表Ⅲ-3は参加種目の集計結果を示す。長野男性では10㎞が最も多く69人(50.0%)、以下3㎞が23人(16.7%)、2㎞が17人(12.3%)であった。長野女性では2kmが24人(33.8%)と最も多く、以下10㎞が20人(28.2%)、5kmが11人(15.5%)であった。県外男性では10㎞が88人(73.9%)と最も多く、以下5kmが19人(16.0%)、3kmが4人(3.4%)であった。県外女性では10㎞が最も多く56人(57.1%)、以下5kmが24人(24.5%)、3kmが8人(8.2%)であった。長野女性を除き、他の区分で参加種目10kmが一番多かった。長野女性の参加種目は昨年と異なり、2km参加者の割合が今年一番多かった。2kmは年齢制限がなく、最年少参加者は4歳の県内女性であった。参加資格が3kmで小学校4年生以上、5kmは中学生以上、10kmは高校生以上であった。このことから長野女性は10歳未満、10代、20代の参加者が多かったことと合わせて考えると、親子で一緒に参加した者や小学生の参加者が多かったと考えられる。



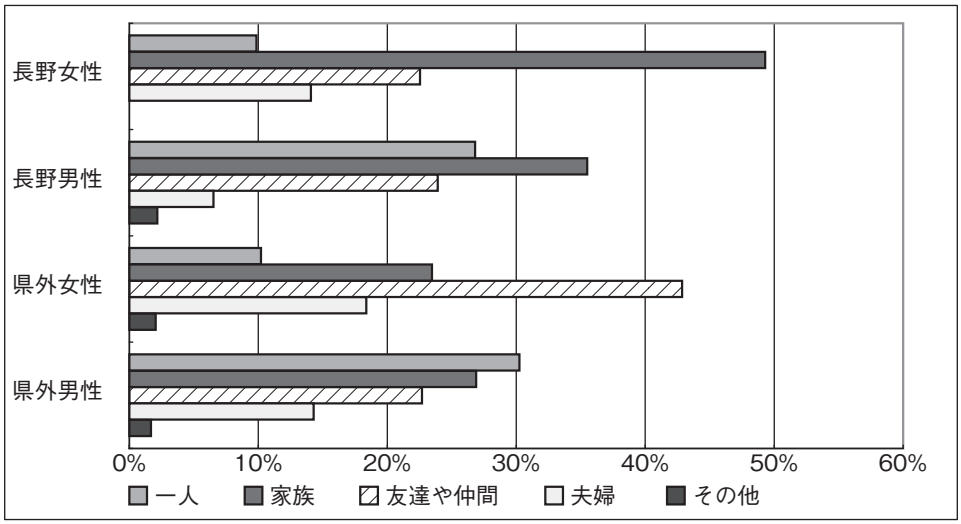
図表Ⅲ-3　居住地別・男女別参加者の参加種目

図表Ⅲ-4は居住地別・男女別参加状況の集計結果を示す。長野男性では初めて参加が102人(73.9％)で前回も参加が28人(20.3％)であった。長野女性では初めて参加が47人(66.2％)、前回も参加が21人(29.6％)であった。県外男性では初めて参加が97人(81.5％)、前回も参加が21人(17.6％)であった。県外女性では初めて参加が89人(90.8％)、前回も参加が8人(8.2％)であった。長野女性でのリピート率が30%近くあった。



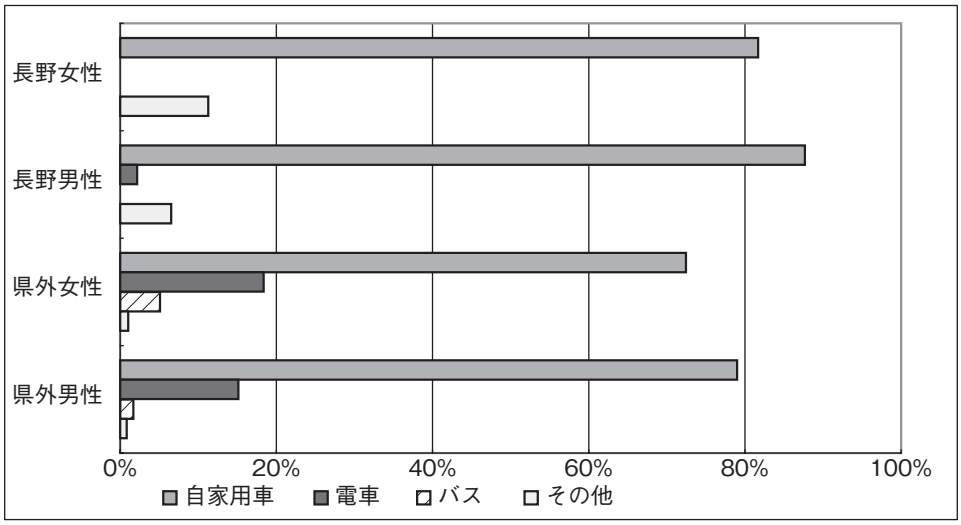
図表Ⅲ-4　居住地別・男女別参加者の参加状況

図表Ⅲ-5は県内外居住男女別同伴者の集計結果を示す。長野男性では一番多かったのは家族が49人(35.5%)、以下一人が37人(26.8%)、友達や仲間が33人(23.9％)であった。長野女性では一番多かったのは家族が35人(49.3％)、以下友達や仲間が16人(22.5％)、夫婦が10人(14.1％)であった。県外男性では一番多かったのは一人が36人(30.3％)、以下家族が32人(26.9％)、友達や仲間が27人(22.7％)であった。県外女性では友達や仲間が42人(42.9％)、以下家族が23人(23.5%)、夫婦が18人(18.4%)であった。男性は一人での参加が女性に比べて多く、女性は同伴者と一緒の参加が多い。中でも長野女性では家族と一緒に参加が一番多かったのに対し、県外女性では友達や仲間と一緒が一番多かった。長野男性では家族と一緒の参加が一番多かったのに対し、県外男性では一人で参加が一番多かった。以上のように男女、居住地で違う傾向が見られた。これは競技に対する目的が違うためだと考えられる。



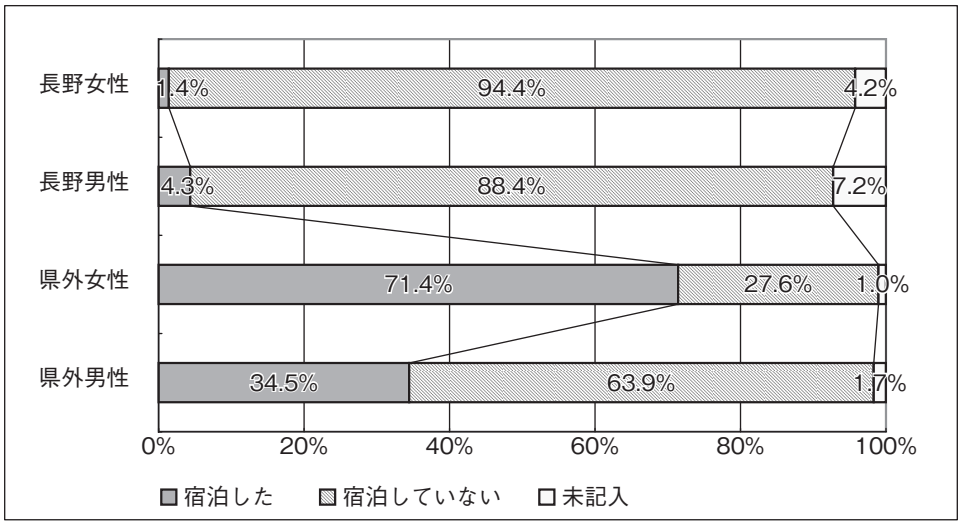
図表Ⅲ-5　居住地別・男女別参加者の同伴者

図表Ⅲ-6に参加者の主な交通手段の集計結果を示す。長野男性では一番多かったのが自家用車で121人(87.7％)、次に電車3人(2.2%)であった。長野女性では自家用車が58人(81.7%)、次に、その他8人(11.3%)であった。県外男性では自家用車が94人(79.0%)、以下電車18人(15.1%)、バス2人(1.7%)であった。県外女性では自家用車が71人(72.4％)、電車が18人(18.4%)、バス5人(5.1%)であった。第1回目大会アンケート調査結果から最寄り駅からシャトルバスを運行するようになり、シャトルバスを利用した参加者も見受けられた。県内外ともに交通手段では自家用車が一番多かったが、県内では自家用車の次に、その他が多かった。これは塩尻市内、もしくは近郊の参加者が自転車を使った、もしくは徒歩であったと考えられる。



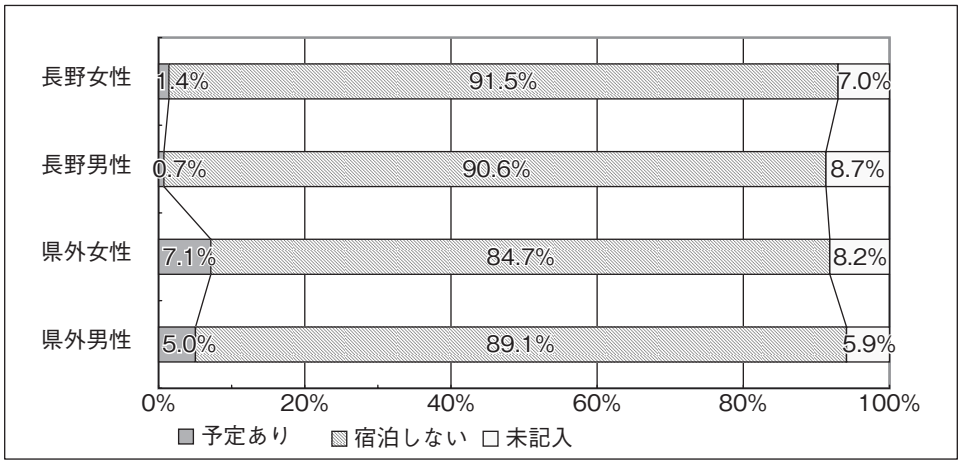
図表Ⅲ-6　居住地別・男女別参加者の交通手段

図表Ⅲ-7に居住地別・男女別参加者の大会前夜の宿泊の有無の集計結果を示す。長野男性では宿泊したと回答したのは6人(4.3%)、宿泊していないが122人(88.4%)で無回答が10人(7.2%)であった。長野女性では宿泊したが1人(1.4%)、宿泊していないが67人(94.4%)、で無回答が3人(4.2%)であった。県外男性では宿泊したが41人(34.5%)宿泊していないが76人(63.9%)、無回答が2人(1.7%)であった。県外女性では宿泊したが70人(71.4%)、宿泊していないが27人(27.6%)、無回答が1人(1.0%)であった。昨年と同様に県外女性は宿泊者、宿泊した割合、共にトップであった。さらに宿泊した施設ではグラフには示していないが県外男女ともホテルがトップであった。



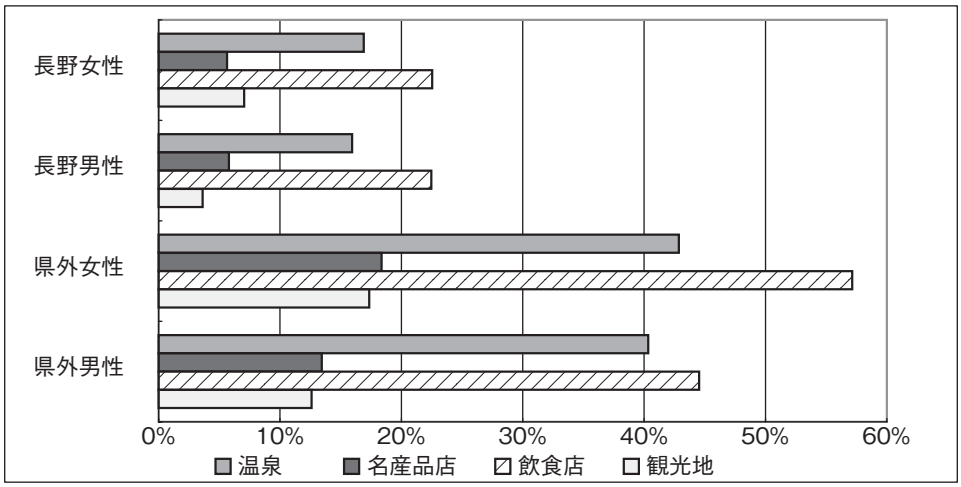
図表Ⅲ-7　居住地別・男女別参加者の大会前夜の宿泊状況

図表Ⅲ-8に居住地別・男女別参加者の大会後の宿泊の有無の集計結果を示す。長野男性では宿泊するが1人(0.7%)、宿泊しないが125人(90.6%)、無回答が12人(8.7%)であった。長野女性では宿泊するが1人(1.4%)、宿泊しないが65人(91.5%)、無回答が5人(7.0%)であった。県外男性では宿泊するが6人(5.0%)、宿泊しないが106人(89.1%)、無回答が7人(5.9%)であった。県外女性では宿泊するが7人(7.1%)、宿泊しないが83人(84.7%)、無回答が8人(8.2%)であった。いずれも「宿泊する予定はない」が最も多い回答であった。宿泊した参加者では大会に前泊した者が殆どであった。



図表Ⅲ-8　居住地別・男女別参加者の大会後に宿泊する予定の有無

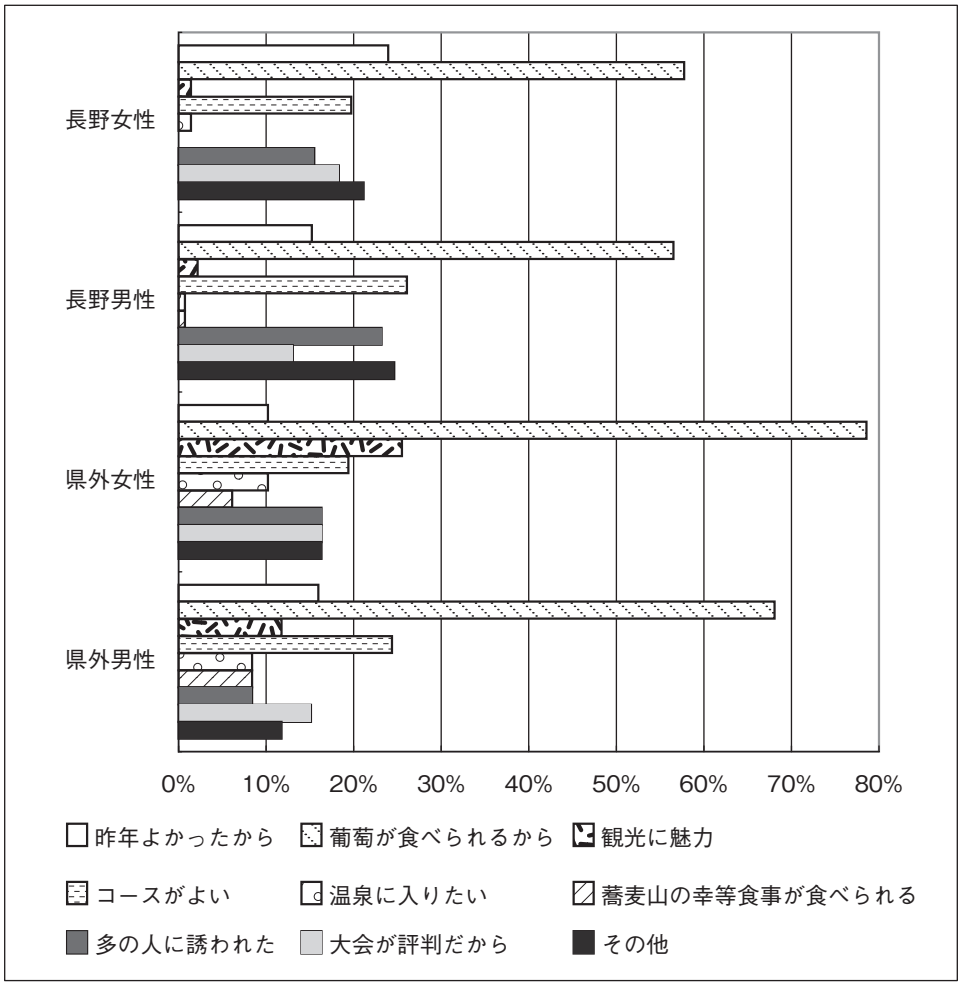
図表Ⅲ-9に居住地別・男女別参加者の大会後の立ち寄り予定先（複数回答）の集計結果を示す。長野男性では飲食店が一番多く31人（22.5%）、次いで温泉22人（15.9%）であった。長野女性では飲食店が16人（22.5%）、次いで温泉12人（16.9%）であった。県外男性では飲食店が53人（44.5%）、次いで温泉が48人（40.3%）であった。県外女性では飲食店が56人（57.1%）、温泉が42人（42.9%）であった。いずれも飲食店と温泉が立ち寄り予定先として多かった。立ち寄る先で「観光地」は県外男女で予定はあったもののそれぞれ20%を超えていない。これは大会後に宿泊する予定はない参加者が殆であったので帰路のために時間に余裕がないからであると考えられる。



図表Ⅲ-9　居住地別・男女別参加者の立ち寄り予定先

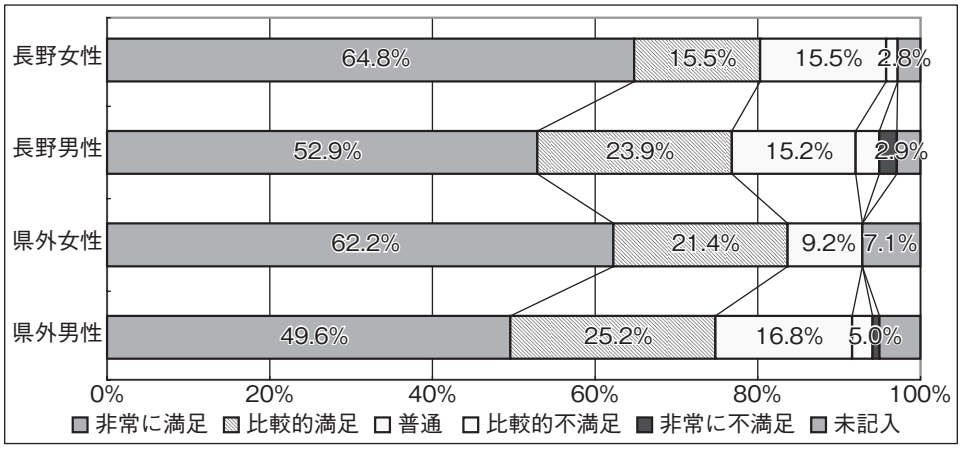
図表Ⅲ-10に居住地別・男女別参加者の参加理由（複数回答）の集計結果を示す。参加理由（複数回答）を単純集計した結果は「ぶどうが食べられるから」が278人（37.2%）、「コースが

良さそうだから」が98人(13.1%)、「他の人に誘われたから」が69人(9.2%)であった。県内で見ると多いものから順に長野男性では「ぶどうが食べられるから」が78人(56.5%)、「コースが良いから」が36人(26.1%)、「他の人に誘われたから」が32人(23.2%)であった。長野女性では「ぶどうが食べられるから」が41人(57.7%)、「昨年良かったから」が17人(23.9%)、「コースが良いから」が14人(19.7%)であった。県外男性では「ぶどうが食べられるから」が81人(68.1%)、「コースが良いから」が29人(24.4%)、「昨年良かったから」が19人(16.0%)であった。県外女性では「ぶどうが食べられるから」が77人(78.6%)、「観光に魅力があるから」が25人(25.5%)、「コースが良いから」が19人(19.4%)であった。どのクラスも昨年と同様「ぶどうが食べられる」が一番多く、男性では「コースが良い」が二番目に、女性では三番目に多かった。県外の女性は二番目に「観光に魅力」が多かった。また「大会が評判だから」がどのクラスでも15%近くあった。今大会がまだ2回目であることを考えると第1回目の大会の参加者の評価が良かった、また大会の宣伝PRが効果をもたらしているものと考えられる。



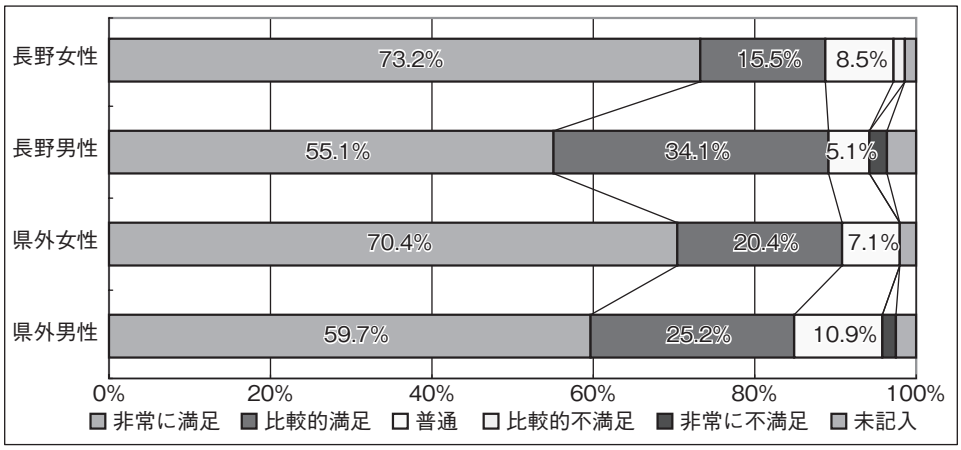
図表Ⅲ-10　居住地別・男女別参加者の参加理由

図表Ⅲ-11に居住地別・男女別参加者の沿道の声援に対する満足度の集計結果を示す。長野男性は非常に満足が73人(52.9%)、比較的満足が33人(23.9%)であった。長野女性では非常に満足が46人(64.8%)、比較的満足が11人(15.5%)であった。県外男性では非常に満足が59人(49.6%)、比較的満足が30人(25.2%)であった。県外女性では非常に満足が61人(62.2%)、比較的満足が21人(21.4%)であった。男性に比べ女性の満足度が高かった。非常に満足と比較的満足を足すと県外女性の満足度の割合が一番高かった。



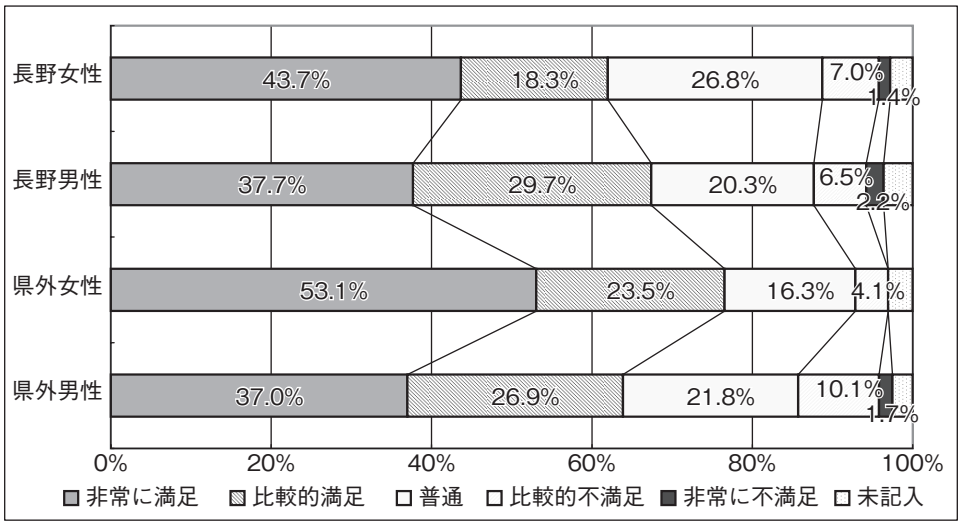
図表Ⅲ-11　居住地別・男女別参加者の沿道の声援に対する満足度

図表Ⅲ-12に居住地別・男女別参加者のスタッフの対応に対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が76人(55.1%)、比較的満足が47人(34.1%)であった。長野女性では非常に満足が52人(73.2%)、比較的満足が11人(15.5%)であった。県外男性では非常に満足が71人(59.7%)、比較的満足が30人(25.2%)であった。県外女性では非常に満足が69人(70.4%)、比較的満足が20人(20.4%)であった。女性の満足度が男性よりも高かった。



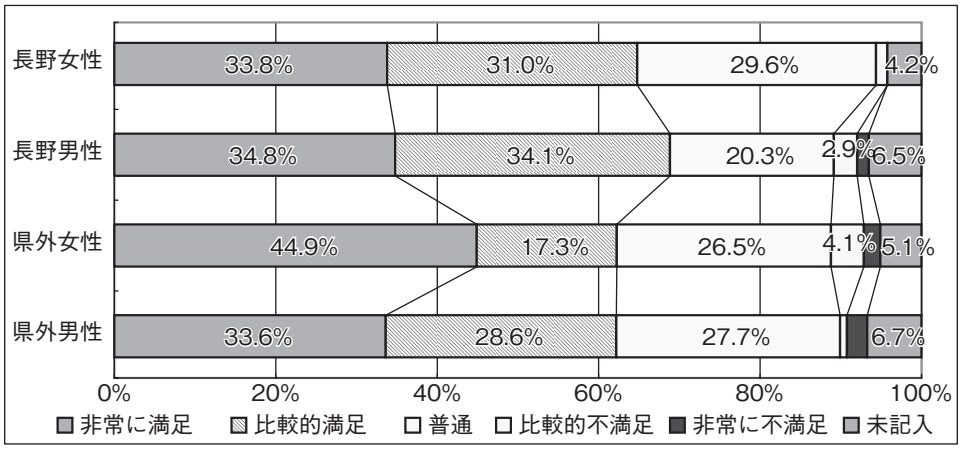
図表Ⅲ-12　居住地別・男女別参加者のスタッフに対する満足度

図表Ⅲ-13に居住地別・男女別参加者のトイレの数に対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が52人(37.7%)、比較的満足が41人(29.7%)に対し、比較的不満足が9人(6.5%)、非常に不満足が3人(2.2%)であった。長野女性では非常に満足が31人(43.7%)、比較的満足が13人(18.3%)に対し、比較的不満足が5人(7.0%)、非常に不満足が1人(1.4%)であった。県外男性では非常に満足が44人(37.0%)、比較的に満足が32人(26.9%)に対し、比較的不満足が12人(10.1%)、非常に不満足が2人(1.7%)であった。県外女性では非常に満足が52人(53.1%)、比較的満足が23人(23.5%)に対し、比較的不満足が4人(4.1%)であった。今回のアンケートと昨年度の結果を比較し、良くなった項目では「トイレの数が増えた」との回答があった。トイレの数の満足度は昨年のアンケート調査時よりも改善されたが比較的不満足、非常に不満足と回答した参加者が最大11.8%(県外男性)であり、他の質問に比べて多い傾向にあった。



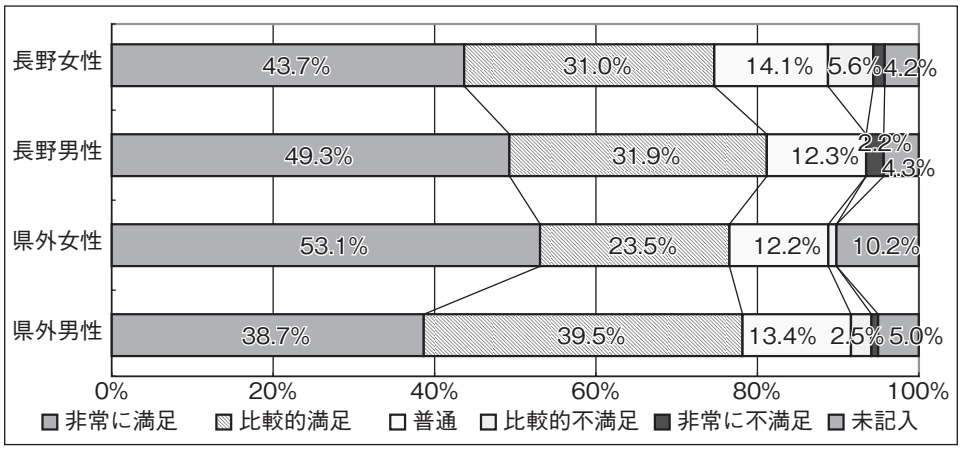
図表Ⅲ-13　居住地別・男女別参加者のトイレの数の満足度

図表Ⅲ-14に居住地別・男女別参加者の会場の設備に対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が48人(34.8%)、比較的満足が47人(34.1%)であった。長野女性では非常に満足が24人(33.8%)、比較的満足が22人(31.0%)であった。県外男性では非常に満足が40人(33.6%)、比較的満足が34人(28.6%)であった。県外女性では非常に満足が44人(44.9%)、比較的満足が17人(17.3%)であった。会場の設備に関して、県外女性の非常に満足が44.9%と一番高かった。また今回のアンケートで昨年度と比べ良くなった項目では「運営がスムーズになった」、「受付の準備が良くなった」と評価した回答もあった。また比較的不満足と答えた割合は、最も多い県外女性でおよそ5%弱であり、概ね満足と考えてよいであろう。



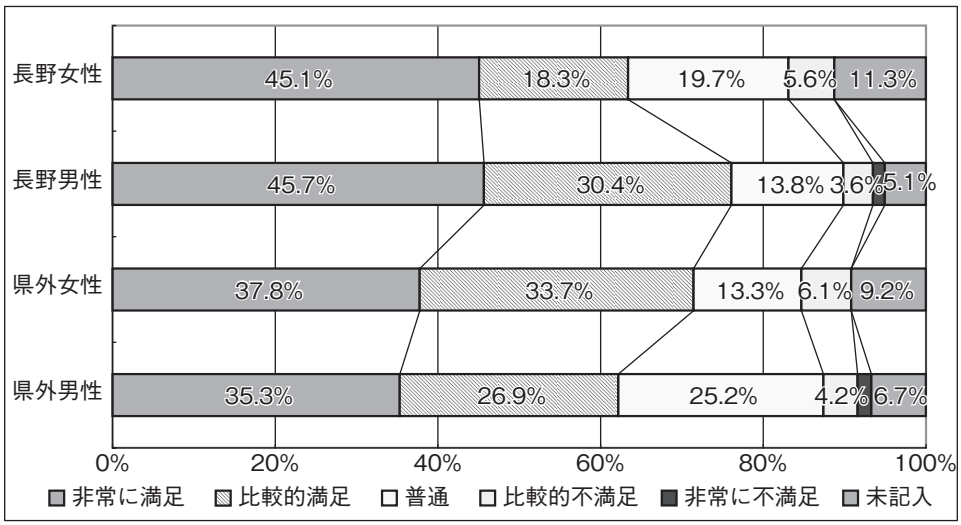
図表Ⅲ-14　居住地別・男女別参加者の会場の設備に対する満足度

図表Ⅲ-15に居住地別・男女別参加者の会場のコースに対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が68人(49.3%)、比較的満足が44人(31.9%)であった。長野女性では非常に満足が31人(43.7%)、比較的満足が22人(31.0%)であった。県外男性では非常に満足が46人(38.7%)、比較的満足が47人(39.5%)であった。県外女性では非常に満足が52人(53.1%)、比較的満足が23人(23.5%)であった。県外男性では非常に満足と比較的満足の割合がほぼ同じであったが、他のクラスでは非常に満足が一番多かった。さらに長野女性では比較的不満足が4人(5.6%)と他のクラスに比べて多かった。長野男性では非常に不満足が3人(2.2%)と他のクラスに比べて多かった。これは県内居住であるため地理に精通しているものが答えた可能性が考えられた。しかし、満足と答えた参加者は70%を超え、クラスによっては80%近くになったので概ね満足だったと考えてよいだろう。また今回のアンケートで昨年度と比べ良くなった項目では「コースの案内が良くなった」、「距離表示が良くなった」と評価した参加者も存在した。



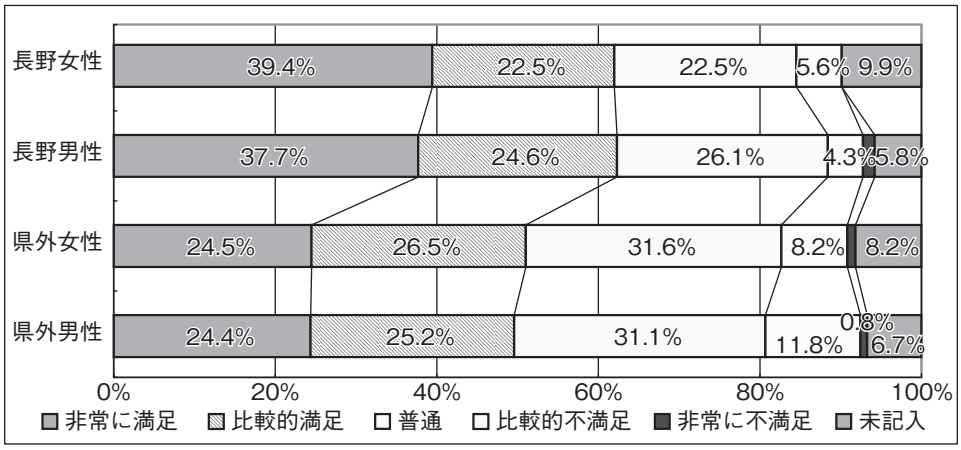
図表Ⅲ-15　居住地別・男女別参加者のコースに対する満足度

図表Ⅲ-16に居住地別・男女別参加者の会場の給水に対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が63人(45.7%)、比較的満足が42人(30.4%)であった。長野女性では非常に満足が32人(45.1%)、比較的満足が13人(18.3%)であった。県外男性では非常に満足が42人(35.3%)で比較的満足が32人(26.9%)であった。県外女性では非常に満足が37人(37.8%)で比較的満足が33人(33.7%)であった。昨年度の調査では給水の満足度が非常に満足と比較的満足を足して60%に満たなかった。今回はいずれのクラスも少なくとも60%は超え、前回調査時よりも改善され、参加者も満足したと考えられる。また今回のアンケートで昨年度と比べ良くなった項目では「給水所が増えた」、「給水ポイントで水の量について改善を求めたら改善してもらえた」と記述した参加者もあった。



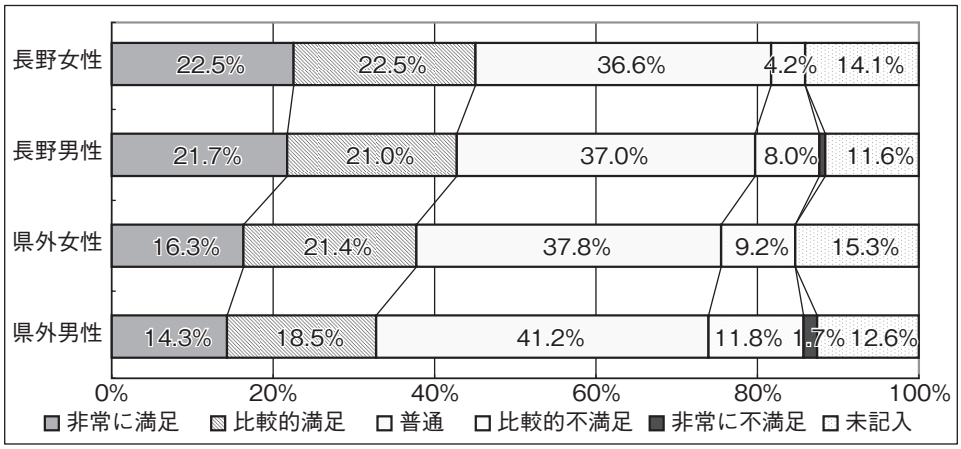
図表Ⅲ-16　居住地別・男女別参加者の給水に対する満足度

図表Ⅲ-17に居住地別・男女別参加者の会場の売店に対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が29人(37.7%)、比較的満足が30人(24.6%)であった。長野女性では非常に満足が28人(39.4%)、比較的満足が16人(22.5%)であった。県外男性では非常に満足が30人(24.4%)、比較的満足が30人(25.2%)に対し、比較的不満足が14人(11.8%)、であった。県外女性では非常に満足が24人(24.5%)、比較的満足が16人(26.5%)に対し、比較的不満足が9人(8.2%)であった。県外居住者の参加者の満足と回答したものが県内居住者に対して少なかった。県外参加者は周辺地理に不安であるため、電車やバスで来た参加者は会場内にある売店の場所や売店で取り扱っている内容を知りたいと思われる。今後、この点を改善することにより、大会の満足度をあげることにつながると思われる。



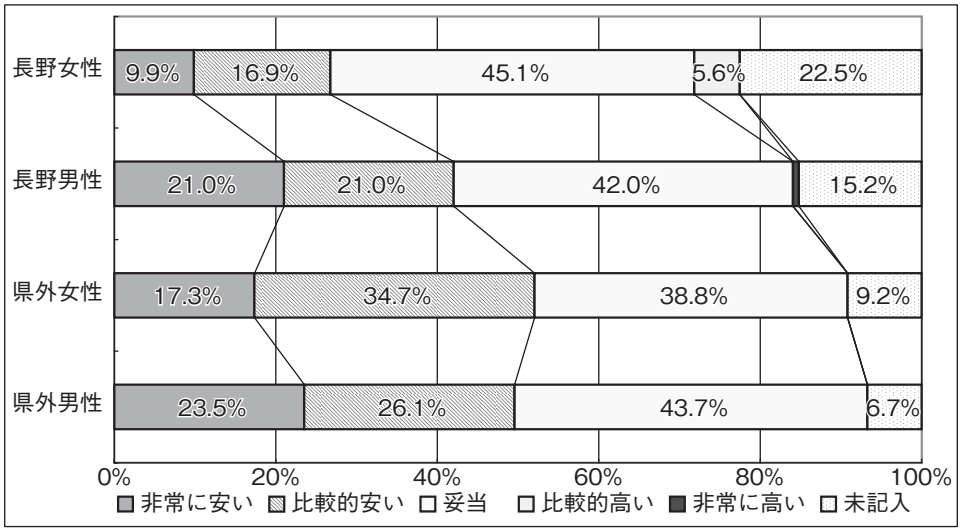
図表Ⅲ-17　居住地別・男女別参加者の売店に対する満足度

図表Ⅲ-18に居住地別・男女別参加者の観光地・食堂などへの案内に対する満足度の集計結果を示す。長野男性では非常に満足が30人(21.7%)、比較的満足が29人(21.0%)であった。長野女性では非常に満足が16人(22.5%)、比較的満足が16人(22.5%)であった。県外男性では非常に満足が17人(14.3%)、比較的満足が22人(18.5%)に対し、比較的不満足が14人(11.8%)、非常に不満足が2人(1.7%)であった。県外女性では非常に満足が16人(16.3%)、比較的満足が21人(21.4%)に対し、比較的不満足が9人(9.2%)であった。比較的不満足と回答した参加者の割合が先の項目と同様に、他の質問に比べて多く、特に県外男女ともに約10%存在した。レースには満足したが、その後の楽しみについてもっと情報を得たいと考えている参加者が存在すると考えられた。次回以降、この点を改善すると満足度が向上すると考えられる。



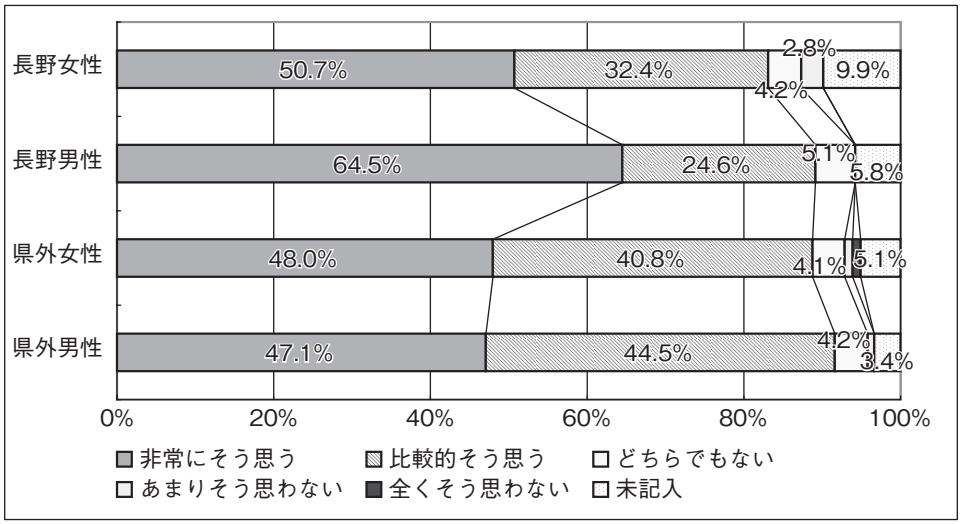
図表Ⅲ-18　居住地別・男女別参加者の観光地・食堂などの案内に対する満足度

図表Ⅲ-19に居住地別・男女別参加者の参加費に対する評価の集計結果を示す。長野男性では非常に安いが29人(21.0%)、比較的安いが29人(21.0%)、妥当が58人(42.0%)であった。長野女性では非常に安いが7人(9.9%)、比較的安いが12人(16.9%)、妥当が32人(45.1%)であった。県外男性では非常に安いが28人(23.5%)、比較的安いが31人(26.1%)、妥当が52人(43.7%)であった。県外女性では非常に安いが17人(17.3%)、比較的安いが34人(34.7%)、妥当が38人(38.8%)であった。どのクラスでも妥当と答えた割合が一番多かった。しかし、県外からの参加者は安いと答えた割合が多く、中でも県外女性が県外男性よりも多かったこと、長野女性は参加費が安いと答えた割合が他のクラスに比べて少なかったことが特徴であった。



図表Ⅲ-19　居住地別・男女別参加者の参加費に対する評価

図表Ⅲ-20に居住地別・男女別参加者の次回も参加したいかの有無の集計結果を示す。長野男性では非常にそう思うが89人(64.5%)、比較的そう思うが34人(24.6%)であった。長野女性では非常にそう思うが36人(50.7%)、比較的そう思うが23人(32.4%)であった。県外男性では非常にそう思うが56人(47.1%)、比較的そう思うが53人(44.5%)であった。県外女性では非常にそう思うが47人(48.0%)、比較的そう思うが10人(40.8%)であった。いずれのクラスにおいても8割以上の参加者が次回も参加したいと答えている。特に県内参加者の半数以上が次回への強い参加をもっている。



図表Ⅲ-20　次回も参加したいかに対する回答

図表Ⅲ-21aに長野男性138人の消費支出を示す。図表の最大値と最小値はそれぞれ使用した金額の最大値(円)とゼロでない最小の使用金額(円)を表す。度数はそれぞれの費目に対して実際にお金を使った人数を表す。また、平均aは合計金額について実際にお金を使った人数(度数)で割った額を、平均bは合計金額を138で割った額を表す。長野男性は、お土産として、生鮮畜農産物、ワイン・酒には支出をしているが、パン・菓子類には支出をしていない。実際に支出した人の平均支出額(平均a)を見ると、ワイン・酒の方が生鮮畜農産物を上回っている。

図表Ⅲ-21a　長野男性の消費支出

長野（男性）	最大値	最小値	合計金額	度数	平均 a	平均 b
交通費（現地内）	4,500	135	40,635	30	1,354.5	294.5
宿泊費	1,000		1,000	1	1,000.0	7.2
飲食費	40,000	300	82,350	35	2,352.9	596.7
生鮮農畜産物	2,000	500	21,000	19	1,105.3	152.2
ワイン・酒	3,000	1,000	18,000	11	1,636.4	130.4
パン・菓子類			0	0		
その他	2,000	1,000	4,800	3	1,600.0	34.8

図表Ⅲ-21bに長野女性71人の消費支出を示す。度数はそれぞれの費目に対して実際にお金を使った人数を表す。また、平均aは合計金額について実際にお金を使った人数(度数)で割った額を、平均bは合計金額を71で割った額を表す。

長野女性は、長野男性と同様に、パン・菓子類には支出をしていない。お土産として、生鮮畜農産物、ワイン・酒の順に買った人数が多く、平均金額(平均a、平均bともに)生鮮畜農産物の方がワイン・酒よりも多くなっている。

図表Ⅲ-21b　長野女性の消費支出

長野（女性）	最大値	最小値	合計金額	度数	平均 a	平均 b
交通費（現地内）	2,000	200	22,040	18	1,224.4	310.4
宿泊費				0		
飲食費	5,000	500	38,050	19	2,002.6	535.9
生鮮農畜産物	6,000	270	19,170	11	1,742.7	270.0
ワイン・酒	3,000	600	8,600	6	1,433.3	121.1
パン・菓子類			0	0		
その他	700	700	700	1	700.0	9.9

図表Ⅲ-21cに県外男性119人の消費支出を示す。度数はそれぞれの費目に対して実際にお金を使った人数を表す。また、平均aは合計金額について実際にお金を使った人数(度数)で割った額を、平均bは合計金額を119で割った額を表す。県外男性は、1人当たり、現地内交通費に約3,300円(平均b)、宿泊費に約3,990円(平均b)支出している。お土産品として、生鮮畜農産物、ワイン・酒、パン・菓子類の順に購入者が多く、平均金額もこの順になっている。

図表Ⅲ-21c　県外男性の消費支出

県外（男性）	最大値	最小値	合計金額	度数	平均 a	平均 b
交通費（現地内）	65,000	230	387,970	66	5,878.3	3,260.3
宿泊費	100,000	3,000	474,780	35	13,565.1	3,989.7
飲食費	20,000	140	218,490	76	2,875	1,836
生鮮農畜産物	20,000	500	96,050	37	2,595.9	807.1
ワイン・酒	5,000	500	52,500	27	1,944.4	441.2
パン・菓子類	3,000	300	16,800	13	1,292.3	141.2
その他	5,000	400	29,100	14	2,078.6	244.5

図表Ⅲ-21dに県外女性98人の消費支出を示す。度数はそれぞれの費目に対して実際にお金を使った人数を表す。また、平均aは合計金額について実際にお金を使った人数(度数)で割った額を、平均bは合計金額を98で割った額を表す。県外女性は、1人当たり、現地内交通費に約2,520円(平均b)、宿泊費に約5,780円(平均b)支出している。交通費(現地内)は県外男性より740円ほど少ないが、宿泊費は1,790円ほど多い。このあたりに女性の心理が少しは現れているかもしれない。県外女性も県外男性同様に、お土産品として、生鮮畜農産物、ワイン・酒、パン・菓子類の順に購入者が多く、平均金額(平均b)もこの順になっている。

図表Ⅲ-21d　県外女性の消費支出

県外（女性）	最大値	最小値	合計金額	度数	平均 a	平均 b
交通費（現地内）	17000	460	247,260	53	4,665.3	2,523.1
宿泊費	100,000	4,000	560,400	53	10,573.6	5,777.3
飲食費	15,000	500	230,500	61	3,778.7	2,352.0
生鮮農畜産物	5,000	140	100,790	43	2,344.0	1,028.5
ワイン・酒	10,000	1,000	75,150	26	2,890.4	766.8
パン・菓子類	5,000	500	38,000	18	2,111.1	387.8
その他	5,000	1,000	18,050	6	3,008.3	184.2

Ⅳ．ロードレース参加者の運動習慣

１．ロードレース参加者の日常における運度頻度

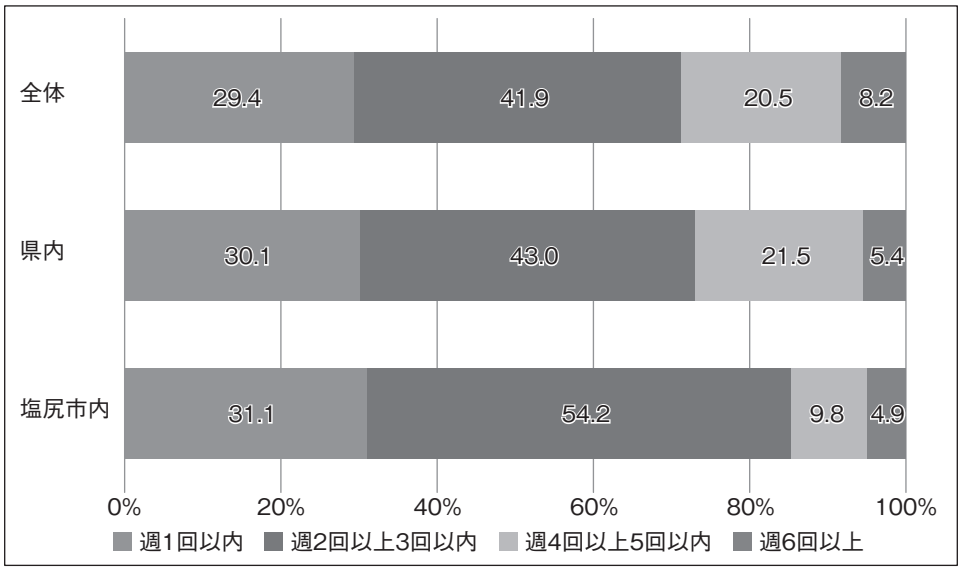
ロードレース参加者の運動頻度について、年、月、週の3件法を用い、併せて運動回数についても回答を得た。その際、回答者の一番多かった週を基準にするため、年、月及び回数を週の運動頻度に照らしあわせて分析を行った。

参加者における居住場所別運動頻度及び週の運動回数を以下に示す（図表Ⅳ-1）。各回答者数は、参加者全体が391名、県内居住者が186名、そして塩尻市内居住者が61名であった。

参加者全体では、週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人は164名（41.9％）で最も多く、2番目に週1回以内が115名（29.4％）であった。参加者全体において、週3回以内運動を実施していると回答した人は、全体の7割強を占めていた。

県内居住者における運動頻度及び回数について、最も運動回数が多かったのは週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人が80名（43.0％）、2番目に週1回以内運動を実施していると回答した人は56名（30.1％）であった。県内参加者全体において、週3回以内運動を実施していると回答した人は、全体の7割強を占めていた。

塩尻市内居住者における運動頻度及び回数について、最も運動回数が多かったのは週2回以上週3回以内運動を実施している回答した人が33名（54.2％）、2番目に週1回以内運動を実施していると回答した人が19名（31.1％）であった。塩尻市内参加者全体において、週3回以内運動を実施していると回答した人は、全体のおよそ85％強を占めていた。



図表Ⅳ-1　参加者における居住場所別運動頻度及び週の運動回数（全体）

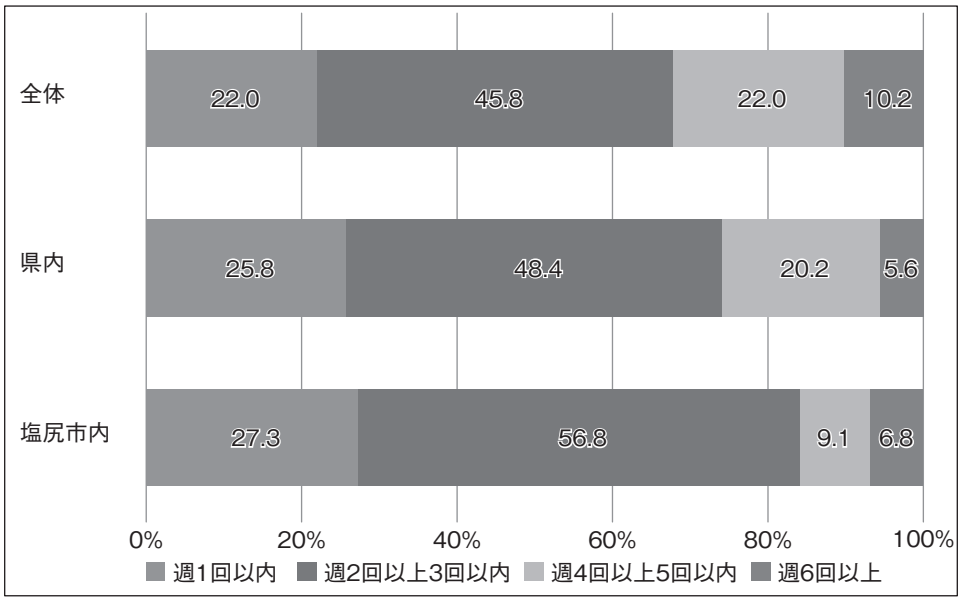
男性参加者における居住場所別運動頻度及び週の運動回数を以下に示す（図表Ⅳ-2）。各回答者数は、男性全体が236名、県内居住者が124名、そして塩尻市内居住者が44名であった。

男性全体で週2回以上週3回以内運動を実施していると回答したのは108名（45.8％）で最

も多く、2番目に週1回以内、及び週4回以上週5回以内がそれぞれ52名(22.0%)であった。男性参加者全体において、週3回以内運動を実施している人は、全体のおよそ7割弱を占めていた。

県内男性居住者における運動頻度及び回数について、最も運動回数が多かったのは週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人が60名(48.4%)、2番目に週1回以内運動を実施していると回答した人が32名(25.8%)であった。県内男性居住者において、週3回以内運動を実施している人は、県内男性居住者のおよそ75%弱を占めていた。

塩尻市内男性居住者における運動頻度及び回数について、最も運動回数が多かったのは週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人が25名(56.8%)、2番目に週1回以内運動を実施していると回答した人が12名(27.3%)であった。塩尻市内男性居住者において、週3回以内運動を実施している人は、全体のおよそ85%弱を占めていた。



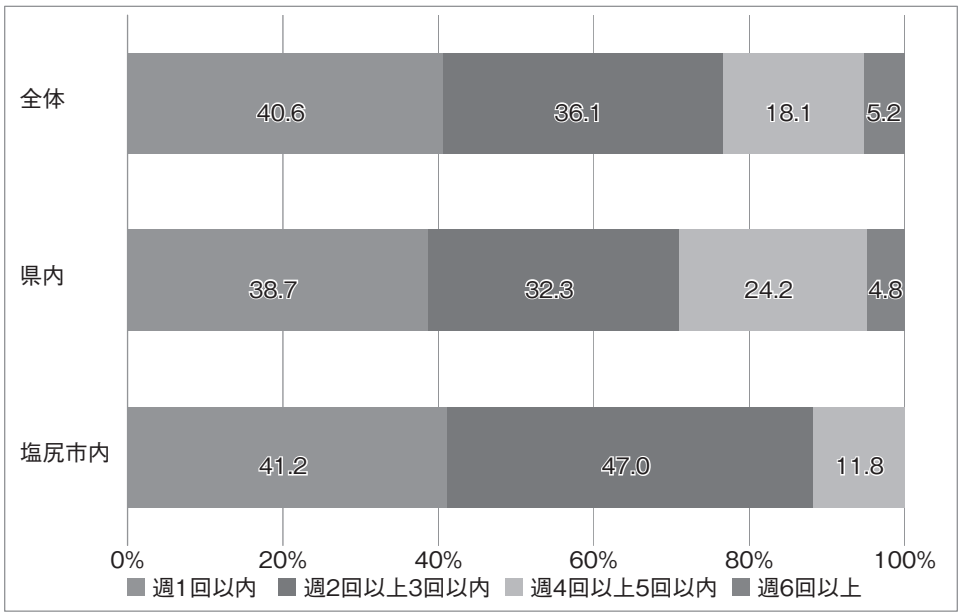
図表Ⅳ-2　男性参加者における居住場所別運動頻度及び週の運動回数

女性参加者における居住場所別運動頻度及び週の運動回数を以下に示す(図表Ⅳ-3)。各回答者数は、女性全体が155名、県内居住者が62名、そして塩尻市内居住者が17名であった。

女性全体で週1回以内運動を実施していると回答した人が63名(40.6%)で最も多く、2番目に週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人が56名(36.1%)であった。女性参加者全体において、週3回以内運動を実施している回答した人は、全体のおよそ75%強の割合を占めていた。

県内女性居住者における運動頻度及び回数について、最も運動回数が多かったのは週1回以内運動を実施していると回答した人が24名(38.7%)、2番目に週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人が20名(32.3%)であった。県内女性居住者全体において、週3回以内運動を実施していると回答した人は、全体の7割強を占めていた。

塩尻市内女性居住者における運動頻度及び回数について、最も運動回数が多かったのは週2回以上週3回以内運動を実施していると回答した人が8名(47.0％)、2番目に週1回以内運動を実施していると回答した人が7名(41.2％)であった。塩尻市内女性居住者全体において、週3回以内運動を実施していると回答した人の割合は、全体の9割弱を占めていた。



図表Ⅶ-3　女性参加者における居住場所別運動頻度及び週の運動回数

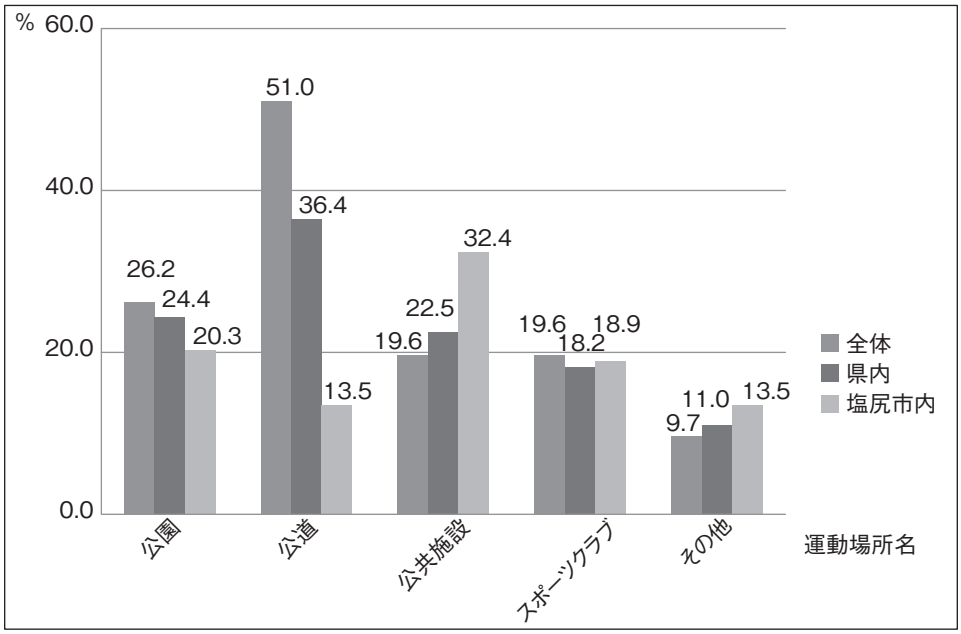
２．日常における運動実施場所、運動実施する相手及び日常における運動種目

日常における運動実施場所について、以下に示す(図表Ⅳ-4)。このアンケート項目は複数回答であるため、各項目回答者数を回答者全員で割り、100をかけたもので表してある。各回答数は、参加者全体が401であり、県内居住者が209、そして塩尻市内居住者74であった。

参加者全体で最も多く運動を実施している場所は、公道で206名(51.0％)であった。2番目に公園106名(26.2％)、3番目に公共施設及びスポーツクラブがそれぞれ79名(19.6％)であった。上位2項目は屋外施設を利用して運動を実施していた。

県内居住者における運動実施場所で最も多かったのは、公道で76名(36.4%)であった。2番目に公園51名(24.4％)、3番目に公共施設47名(22.5%)であった。県内居住者は全体参加者同様、上位2項目は屋外施設を利用して運動を実施していた。

塩尻市内居住者における運動実施場所で最も多かったのは、公共施設24名(32.4%)、2番目に公園15名(20.3%)、3番目にスポーツクラブ14名(18.9%)であった。塩尻市内居住者は、全体参加者及び県内参加者と比べて、屋外施設と室内施設を併用していることが推察された。



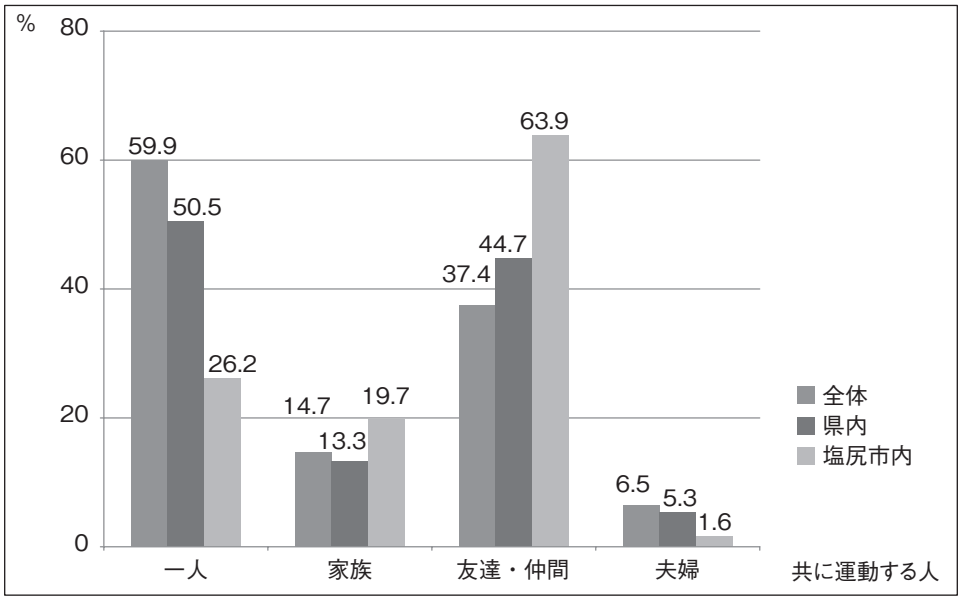
図表Ⅳ-4　参加者における居住地別運動実施場所

参加者が一緒に運動実施する相手について、以下に示す(図表Ⅳ-5)。このアンケート項目は複数回答であるため、各項目回答者数を回答者全員で割り、100をかけたもので表してある。各回答数は、参加者全体が401であり、県内居住者が188、そして塩尻市内居住者61であった。

参加者全体で最も多く運動を一緒に実施している相手は、一人で240名(59.9%)であった。2番目に友達や仲間が150名(37.4%)であった。一人で運動実施と友達や仲間と運動実施を比較すると、2割強も差が開いていた。

県内居住者で最も多く運動を一緒に実施している相手は、一人で95名(50.5%)であった。2番目に友達や仲間が84名(44.7%)であった。県内居住者は全体参加者同様、上位2項目が同じ結果であった。ただし、一人で運動実施と友達や仲間と運動実施を比較すると、県内居住者の場合、大きな差は見られなかった。

塩尻市内居住者で最も多く運動を一緒に実施している相手は、友達や仲間で39名(63.9%)であった。2番目に一人が16名(26.2%)であった。友達や仲間と一人で運動実施を比較すると、およそ4割弱の差が開いていた。塩尻市内居住者は、友達や仲間と一緒に運動を実施する人が多いことが推察された。



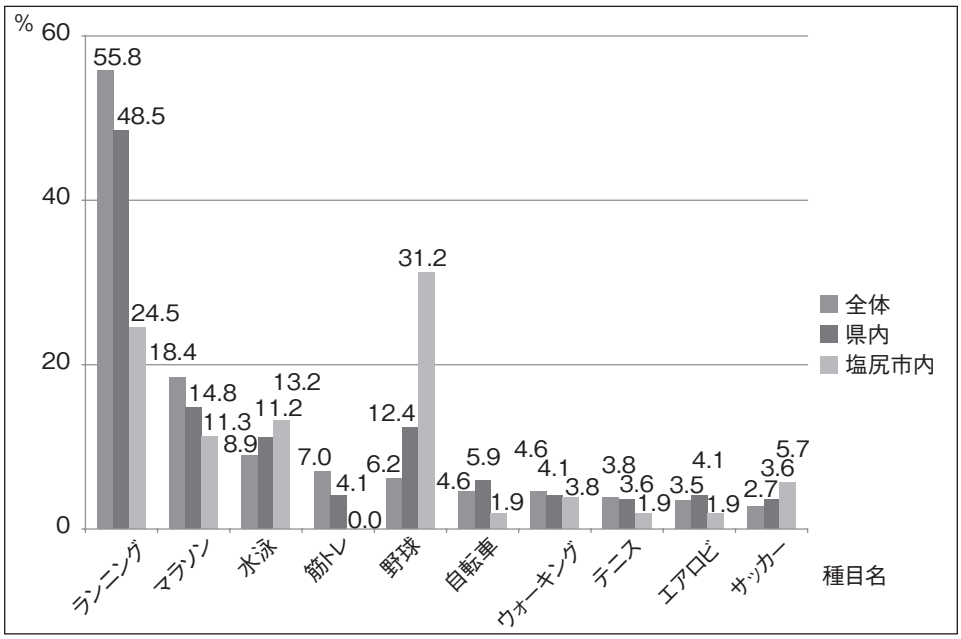
図表Ⅳ-5　一緒に運動実施する相手

参加者の日常における運動種目について、以下に示す(図表Ⅳ-6)。このアンケート項目は複数回答であるため、各項目回答者数を回答者全員で割り、100をかけたもので表してある。各回答数は、参加者全体が369であり、県内居住者が169、そして塩尻市内居住者53であった。

参加者全体で最も多い日常における運動種目は、ランニングで206名(55.8%)であった。2番目にマラソン68名(14.8%)、3番目に水泳33名(8.9%)であった。上位10種目中、7種目で個人種目が占めていた。

県内居住者で日常において最も多い運動種目は、ランニングで82名(48.5%)であった。2番目にマラソンで25名(14.8%)、3番目が野球で21名(12.4%)であった。県内居住者の日常における運動種目は、全体と集団スポーツを行っている人の割合を比較すると、およそ5%強増加していた。

塩尻市内居住者で日常において最も多い運動種目は、野球で17名(31.2%)であった。2番目にランニングで13名(24.5%)、3番目に水泳で7名(13.2%)であった。塩尻市内居住者の日常における運動種目は、全体と集団スポーツを行っている人の割合を比較すると、およそ25%多かった。



図表Ⅳ-6　日常における運動種目

3．年間ロードレース大会等の出場回数、及び本ロードレース大会出場に向けての練習日数

参加者の年間ロードレース大会等の出場回数を以下に示す（図表Ⅳ-7）。

参加者全体における年間ロードレース大会等の出場平均回数は6.2±8.6回であった。参加者全体男性の出場平均回数は7.2±10.1回であった。参加者全体女性の出場平均回数は4.6±5.2回であった。参加者全体女性と比べて参加者全体男性の出場平均回数は、およそ2.6回多い結果であった。

県内参加者における年間ロードレース大会等の出場平均回数は4.1回±8.0回であった。県内男性参加者の年間ロードレース大会等の出場平均回数は4.6±9.5回であった。県内女性参加者の年間ロードレース大会等の出場平均回数は3.1回±3.9であった。全体参加者と県内参加者の年間ロードレース大会等の出場平均回数を比較すると、全体参加者の方が年間およそ2.1回多くロードレース大会等に出場していた。

塩尻市内参加者における年間ロードレース大会等の出場平均回数は1.6回±1.8回であった。塩尻市内男性参加者の出場平均回数は1.6回±1.7回であった。塩尻市内女性参加者の出場平均回数は1.7±2.1回であった。県内参加者と塩尻市内参加者と比較すると、県内参加者の出場平均回数が、年間2.5回多くロードレース大会等に出場していた。

図表Ⅳ-7　年間ロードレース大会等の出場回数

	度数（人）	平均±標準偏差（回）
全体	388	6.1 ± 8.6
県内	185	4.1 ± 8.0
塩尻市内	64	1.6 ± 1.8

本ロードレース出場するための練習日数を以下に示す(図表Ⅳ-8)。参加者全体における本ロードレース出場に向けての練習平均日数は72.7±104.4日であった。参加者全体男性では練習平均日数が79.0±109.4日であった。参加者全体女性では練習平均日数は62.5±95.5日であった。参加者女性と比べて参加者男性の方が、ロードレース大会に向けての練習平均日数が10日間程多い結果であった。

県内参加者における本ロードレース大会出場に向けての練習平均日数は55.3±91.4日であった。県内男性参加者における本ロードレース大会出場に向けての平均練習日数は60.2±97.2日であった。県内女性参加者における本ロードレース大会出場に向けての練習平均日数は44.7±76.8日であった。全体参加者と県内参加者の本ロードレース大会出場に向けての練習平均日数を比較すると、全体参加者の方が年間およそ17日間多く、本ロードレース大会出場に向けて練習を行っていた。

塩尻市内参加者における本ロードレース大会に向けての練習平均日数は40.1±89.8日であった。塩尻市内男性参加者における本ロードレース大会出場に向けての練習平均日数は41.5±93.9日であった。塩尻市内女性参加者における本ロードレース大会出場に向けての練習平均日数は37.2±82.8日であった。県内参加者と塩尻市内参加者との練習平均日数を比較すると、県内参加者が本ロードレース出場に向けて15日間程多く練習を行っていた。

図表Ⅳ-8　本ロードレース出場に向けた練習日数

	度数（人）	平均±標準偏差（日）
全体	350	72.7±104.4
県内	172	55.3±91.2
塩尻市内	62	40.1±89.8

４．リピーターにおける第1回大会出場前後における運動機会の変化

ここでのリピーターとは、本ロードレース第1回大会出場者(2009年)で、今大会出場者(2010年)をリピーターと定義する。そのリピーターに対して、第1回大会前と第1回大会参加後の運動機会(量)の変化について質問をした(図表Ⅳ-9)。各回答者数は、参加者全体が92名、県内居住者が63名、そして塩尻市内居住者が27名であった。

リピーターの運動量の変化について、参加者全体における肯定的回答(「非常にそう思う」「比較的そう思う」)が36名(39.2%)であった。男性参加者全体における肯定的評価は24名(38.8%)であり、女性参加者全体における肯定的評価は12名(40.0%)であった。男女における肯定的な評価に大きな違いは見られず、リピーターのおよそ4割が肯定的評価をしていた。

県内参加者リピーターの運動量変化について、県内参加者全体における肯定的評価が24名(38.1%)であった。県内男性参加者における肯定的評価は16名(39.0%)であり、県内女性参加者における肯定的評価は8名(36.3%)であった。参加者全体のリピーターと比較して、県内参加者とおよそ同様な結果であった。

塩尻市内参加者リピーターの運動量変化について、塩尻市内参加者全体における肯定的評価が8名(29.6%)であった。塩尻市内男性参加者における肯定的評価は7名(38.9%)であり、塩尻市内女性参加者における肯定的評価は1名(11.1%)であった。県内全体と塩尻市内全体の肯定的評価を比較すると、塩尻市内全体が、およそ10%弱下回っていた。また、県内女

性参加者と塩尻市内女性参加者の肯定的評価を比較すると、塩尻市内女性参加者の方が、およそ25%下回っていた。

図表Ⅳ-9　リピーターの第1回大会出場前後における運動機会の変化

人数(%)

	非常にそう思う	比較的そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	19(20.7)	17(18.5)	48(52.1)	5(5.4)	3(3.3)
県内	11(17.5)	13(20.6)	32(50.8)	5(7.9)	2(3.2)
塩尻市内	3(11.1)	5(18.5)	12(44.5)	5(18.5)	2(7.4)

Ⅴ．考察及びまとめ

本研究では地域参加型スポーツイベントである第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースを事例として、同大会における経済波及効果及び参加者の健康増進への影響について明らかにすることを目的とした。

その結果、第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果が、1,306万円にも及ぶことがわかった。第1回大会参加者と今大会参加者数を比較すると、およそ2倍の参加者が今大会に参加していた。第1回大会と今大会の経済波及効果を比較すると、経済波及効果は大会運営経費の2.01倍であった。この結果より、参加者数がおよそ2倍になっても、2,000人規模の地域スポーツイベントでは、経済波及効果は、それほど大きくないことが分かった。

本大会への全体的な満足度は第1回大会同様に高かったが[10]、その中でも特に、県外女性の大会への満足度に対する肯定的評価が85％弱と最も高かった。併せて、「次回大会参加したいか」の項目では、8割以上の参加者が肯定的回答であった。その中で、県外女性では、9割弱が肯定的回答であった。これらの要因は、大会施設やトイレ数の増加等のハード面、及び受付や沿道の声援、大会関係者、ボランティアスタッフ、そして地域住民のおもてなしであるソフト面の充実、そして第1回大会の結果を踏まえた改善の結果であると推察される。一方、参加者からの改善点の指摘として、大会会場内の案内表示を増やすこと、売店の充実、大会後に立ち寄る観光地や施設の情報が欲しい等が挙げられた。特に県外参加者からは、地理に詳しくないこと、大会参加後の地域観光旅行先、地元の特産品等、健康の保持増進施設への案内等を提供し、地域活性化に向けた工夫も今後の課題である。

ロードレース参加者の運動習慣について、週3回以内がおよそ7割であった。塩尻市民における大会参加者の運動習慣は、週3回以内の運動実施者が85％強を占めていた。これは、参加者全体よりも、およそ15％多い結果であった。今回大会出場した塩尻市民は、日常生活の中に運動を取り入れている人が多いことが推察された。

運動実施場所については、参加者全体と県内参加者において屋外施設利用者が多かったことに対し、塩尻市民は屋内施設利用者が多かった。また、日常における運動種目についても、参加者全体と県内参加者では、ロードレースに関連したランニングやマラソンが上位であったのに対し、塩尻市民では野球が一番多かった。これらのことから、本大会に参加した塩尻市民は、ランナーと言うよりも日常生活において、多様な運動種目と親しんで

いる人々であったと考えられる。本大会は県外参加者にとっては、主として「ランナー」のための大会になっていると言えるが、塩尻市民においては、広くスポーツ愛好家のための大会になっていることが示唆された。

本ロードレースについて、塩尻市民の参加者を増加させることを中長期的な視点で考えた場合、地域活性化や塩尻市民の健康増進へと寄与すると考えられる。

塩尻居住参加者が魅力を感じ、楽しめるイベント的な要素を考えることが、今後の課題だと思われる。その際、塩尻市民の参加者を増やす視点から塩尻市が更なるリーダーシップをとり、塩尻市や周辺地域の関係団体に本ロードレースへの参画を促すパイプ役を担う必要がある。塩尻市が他の関係団体とのパイプ役となり、本ロードレースを包括的な地域スポーツイベントとして位置付け、塩尻市民の参加を促し、他の関係団体が加わることで地域活性化の一助にもなる。このような仕組み作りが、今後の大きな課題であると考える。そして、「本ロードレースでしか経験できない、塩尻ならではの楽しさ、充実感、満足感」を得られるような地域スポーツイベントへと創造していくことが求められる。

リピーターの運動機会の増加について、リピーター全体では運動機会の増加に対する肯定的回答がおよそ4割であるのに対し、塩尻市民参加者では3割弱と1割程度低い結果であった。特に、塩尻市民女性の肯定的評価はおよそ1割である。参加者全体、県内参加者の主目的は、参加賞のぶどうにある。しかし、塩尻市内居住参加者において、参加賞のぶどうが塩尻市民の参加者増加数や塩尻市民リピーターの運動習慣増加の大きな誘引に十分になりえてはいないのかもしれない。本ロードレースが、塩尻市民の日常生活における運動習慣の定着、そして健康の保持増進へ寄与するような工夫が必要であると考える。そのためには、本大会に塩尻市民が集まる仕組みを作り出す必要がある。それが、「スポーツ」単独のイベントではなく、他の業界団体とのコラボレーションにあるのではないかと思われる。

スポーツ基本法が2011年8月24日に施行された。同法前文では、①人や地域との交流を通じて、地域の一体感や活力の醸成、②人間関係希薄化等の問題を抱える地域社会の再生、③心身の健康の保持増進の役割をはたし、健康活力に満ちた長寿社会の実現等に言及している[18]。同法では、アスリートへの視点だけではなく、すべての人々が日常的にスポーツを親しむ権利として明文化されたことを評価するとの指摘もある[19][20]。等々力は、「スポーツ界は、得てして競技力向上（＝高度化）にばかり目を向けがちであるが、それとともに、より多くの人々が多くのスポーツを楽しむこと（＝大衆化）に目を向ける必要がある。」[21]と指摘している。

スポーツ基本法が制定される中で、本ロードレースに関わるすべての人々が「スポーツを楽しむ権利」を共有し、地域スポーツイベントにおける経済波及効果、地域住民や県外参加者との交流、地域活性化、社会文化的効果、健康の保持増進等を総合的に高める機会として捉え直す必要がある。

本ロードレースが、塩尻市を中心とする地域密着型のスポーツイベントとして今後定着し、地域住民や参加者に活力を与え、健康の保持増進への寄与、新たな人材の発掘・育成等へつながっていく。そして、塩尻市がパイプ役を担い、他の関係団体とコラボレーションをしながら魅力あふれる大会を創造していくことが、中長期的な視点で考えると塩尻市を中心とする地域の活性化、地域住民への活力及び健康増進に寄与すると考える。

【付記】

本稿はNPO法人塩尻市体育協会の依頼により第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果の分析結果等をまとめたものである。ご支援とご協力いただいたNPO法人塩尻市体育協会と第2回塩尻ぶどうの郷ロードレース関係者等に厚くお礼を申し上げます。

【参考・引用文献】

1)観光庁.“観光立国推進基本法”http://www.mlit.go.jp/kankocho/kankorikkoku/kihonhou.html 2011年10月31日
2)国土交通省.“観光庁”http://www.mlit.go.jp/kankocho/index.html 2011年10月31日
3)観光庁.“観光連携コンソーシアム”http://www.mlit.go.jp/kankocho/iinkai/suishinhonbu/renkei_consortium.html 2011年10月31日
4)国土交通省.“第5回スポーツ・ツーリズム推進連絡会議を開催し､「スポーツツーリズム推進基本方針」～スポーツで旅を楽しむ国・ニッポン～を取りまとめました！”http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05_000034.html 2011年11月6日
5)スポーツで白馬村活性化 識者ら5人招きセミナー. 信濃毎日新聞松本平タウン情報, 2010年6月21日, p12
6)スポーツで地域を救えるか. 大糸タイムス, 2011年6月10日, p2
7)山口志郎, 佐々木朋子, 山口泰雄, 野川春夫：マラソンランナーの参加動機とPush-Pull要因に関する研究：NAHAマラソンにおける県内・県外参加者に着目して. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 4(2)：291-301, 2011.10
8)田中俊夫, 長谷川典子, 小原繁, 佐竹昌之：ホノルルマラソン参加者の準備状況とレースの実態に関する調査研究. 徳島大学大学開放実践センター紀要 17：55-88, 2007.
9)山口泰雄：一行簡潔法と図式化によるイベント・教室の質的評価. 健康づくり, p12-15, 2010.5
10)中島弘毅, 成耆政, 鈴木尚通, 大窄貴史ほか：地域スポーツイベントにおける経済波及効果の計測と地域活性化戦略の構築－「第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレース」の分析を中心に－. 地域総合研究 第11号：2010年6月, 97-133頁.
11)宮沢健一編『産業連関分析入門』日本経済新聞社、1998年4月
12)渡邊隆俊『地域経済の産業連関分析』成文堂、2010年3月
13)上条典夫『スポーツ経済効果で元気になった街と国』講談社、2002年5月
14)安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出』学陽書房、2008年2月
15)川口和英「ワールドカップ開催による地域への波及効果分析事例に関する研究－国際型スポーツイベント開催による波及効果の測定分析－」『鎌倉女子大学紀要』第11号、鎌倉女子大学、2004年3月、1～11頁
16)深道春男・川野恭輔「大分国体等開催による地域経済波及効果の推計」1～28頁
17)Jeffrey Sachs, Felipe Larrain(1992), "Macroeconomics in the global economy" Prentice-Hall
18)文部科学省.“スポーツ基本法”http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/index.htm 2011年11月6日
19)吉田勝光：日韓のスポーツ立法政策－日本でのスポーツ基本法制定への動きを中心に－. 第2回国際交流学術大会 p1-5, 2010. 10
20)「スポーツ基本法」成立！. 健康づくり, p2-6, 2011.10
21)等々力賢治：スポーツは今. 市民タイムス, 2011年8月2日, p11

【参考資料】

【第2回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果等に関するアンケート】

このアンケートは、「第2回塩尻ぶどうの郷ロードレース」が与える経済波及効果及び健康増進への寄与等を推計するため、このレースに参加された方等を対象に行うものです。ご回答いただいた結果を集計し、平均値等を参考にさせていただくもので、個人情報保護に関する法律及び関連法令等に基づき、厳重に管理し、回答内容を個別に公表することや、本目的以外に使用することはありません。

大変お疲れの中、恐縮ではございますが、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

松本大学人間健康学部（大窄）・総合経営学部（成）
（電話：代表0263-48-7200、大窄48-7335、成48-7229）

Ⅰ．基本的な事項についてお聞かせください。

1. 性別：（　男　・　女　）　2。年齢：（　　）歳
3. 居住地：（　　）都道府県　（　　）市町村
4. 参加形態と種目：①選手：参加種目（　　）kmコース　・　お楽しみコース
   ②応援　③観客　④その他（　　）
5. 出場回数：①前回（第1回）もこの大会に参加した　②今回初めて大会参加した　③その他
6. 同伴者：　①1人　②家族　③友達や仲間　④夫婦　⑤その他（　　）
7. 交通手段：①自家用車　②電車　③バス　④その他（　　）

Ⅱ．現地での宿泊についてお聞かせください。

1）①前日に宿泊した⇒1－2）：宿泊場所　①ホテル　②旅館　③民宿　④その他（　　）
　　：宿泊地　①塩尻市内　②塩尻市外（　　）
　②宿泊していない

2）①大会終了後、宿泊予定である
　　⇒2－2：宿泊場所　①ホテル　②旅館　③民宿　④その他（　　）
　　：宿泊地　①塩尻市内　②塩尻市外（　　）
　②宿泊しない

Ⅲ．現地での消費支出についてお聞かせください（大会終了後の予定も含む）。

1）①交通費（現地内）　（　　）円
　②宿泊費　（　　）円
　③飲食費　（　　）円
　④お土産代
　　a）（生鮮農畜産物）　（　　）円
　　b）（ワイン・お酒類）　（　　）円
　　c）（パン・菓子類）　（　　）円
　　d）（その他）（　　）　（　　）円
　⑤その他（　　）　（　　）円

Ⅳ．大会終了後の予定についてお聞きいたします（複数回答可）。

1）立ち寄る予定の場所：　①温泉　②名産品店　③飲食店（そば、信州特産等）
　　④観光地（　　）

Ⅴ．この大会に参加を決めた理由をお聞かせください。当てはまるものに○をつけてください（複数回答）。

①昨年参加して良かったから　②ぶどうが食べられるから　③観光に魅力があったから
④コースが良さそうだから　⑤温泉に入りたいから　⑥そば、山の幸等の食事を食べたかったから
⑦他の人に誘われたから　⑧この大会の評判が良かったから
⑨その他（　　）

Ⅵ. この大会におけるあなたの満足度をお聞かせください。当てはまるものに○をつけてください。

〔①非常に満足　②比較的に満足　③普通　④比較的に不満足　⑤非常に不満足〕

1. 沿道の声援　（　①　②　③　④　⑤　）
2. スタッフの対応　（　①　②　③　④　⑤　）
3. トイレの数　（　①　②　③　④　⑤　）
4. 会場の設備（テント等）　（　①　②　③　④　⑤　）
5. コース　（　①　②　③　④　⑤　）
6. 給水　（　①　②　③　④　⑤　）
7. 売店　（　①　②　③　④　⑤　）
8. 観光地・温泉・食堂等への案内（　①　②　③　④　⑤　）
9. 参加費　（　①非常に安い　②比較的に安い　③妥当　④比較的に高い　⑤非常に高い　）

10. 次回もこの大会に参加したいですか。

（①非常にそう思う ②比較的そう思う ③どちらでもない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない）

10－2.「④あまりそう思わない　⑤全くそう思わない」と答えた方は、その理由をお聞かせ下さい。

（　　）

Ⅶ. あなたの運動習慣などについてお聞かせ下さい。

1. 運動を年または月または週におよそ何回行いますか。ただし、学校の体育の授業は除きます。
：（　年・月・週　）におよそ（　　）回
2. 1回あたりの運動時間は、平均しておよそ何分間ですか：およそ（　　）分間
3. 運動はどこで行っていますか（複数回答可）：　①公園　②公道　③地域の公共施設（体育館等）
④民間のスポーツクラブ　⑤その他（　　）
4. 運動は誰と行っていますか（複数回答可）：　①1人　②家族　③友達や仲間　④　夫婦
5. 普段どのような種目の運動を行っていますか。頻度の高い順にお書き下さい。（複数記入可）
（　　）
6. 1年に何回マラソン及びロードレース等の大会に出場しますか。：（　　）回
7. この大会に出場するにあたり、この1年間に何日間ぐらい練習をしましたか。：（　　）日

Ⅷ. リピーター（昨年の第1回大会参加者）にお伺いします。

1. 昨年の本大会に参加した後、参加する前に比べて運動する機会（量）は、増えたと思いますか。
（①非常にそう思う　②比較的そう思う　③どちらでもない　④あまりそう思わない　⑤全くそう思わない）
2. 昨年の大会参加時に立ち寄ったところは、どこですか。（複数回答）
①温泉　②名産品店　③飲食店（そば、信州特産等）　④観光地（　　）
3. 昨年度と比べて良くなったと思う点をお書き下さい。
（　　）
4. 昨年度と比べて悪くなったと思う点をお書き下さい。
（　　）

Ⅸ. この大会に参加してのご感想、ご要望をお聞かせください。

＊アンケートにご協力いただきありがとうございました。お気をつけてお帰りください。